大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F110310101844	設置等組織名	デジタル共創学部（デジタル共創学科）
大学名	共愛学園前橋国際大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	群馬	事業計画名	デジタル共創学部新設プロジェクト

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	1-① 令和5年4月～令和8年3月 新学部設置のためのプロジェクトチーム発足・活動（R7.9.9承認） 1-② 令和5年5月～令和8年3月 大学・高専機能強化支援事業申請・報告等（R7.9.9承認） 1-③ 令和5年8月～令和6年6月 新学部設置のための方針・新カリキュラム検討（R7.9.9承認） 1-④ 令和5年9月～令和6年12月 新学部設置のための県内企業等中心に人材需要要件の調査の実施内容検討（R7.9.9承認） 1-⑤ 令和5年9月～令和8年3月 新学部設置のための自治体・協力企業・他機関との連携検討（R7.9.9承認） 1-⑥ 令和5年9月～令和7年12月 新学部設置のための教員採用計画（R7.9.9承認） 1-⑦ 令和5年9月～令和6年6月 新学部設置のための事前調査の実施内容検討（R7.9.9承認） 1-⑧ 令和5年9月～令和8年8月 新学部設置のための検証用機器選定（R7.9.9承認） 2前-① 令和5年10月～令和6年5月 新学部設置のための新校舎建築のための設計士選定（R7.9.9承認）		令和5年度自己評価 【２】計画を十分には実施していない。 コンサル業者の選定に当初予定より時間を要したため、調査実施内容の検討に遅れが生じた。遅れを取り戻すよう、検討を進めており、実施時期については予定通りの実施が見込めている。
令和6年度	1-① 令和5年4月～令和8年3月 新学部設置のためのプロジェクトチーム発足・活動（R7.9.9承認） 1-② 令和5年5月～令和8年3月 大学・高専機能強化支援事業申請・報告等（R7.9.9承認） 1-③ 令和5年8月～令和6年6月 新学部設置のための方針・新カリキュラム検討（R7.9.9承認） 1-④ 令和5年9月～令和6年12月 新学部設置のための県内企業等中心に人材需要要件の調査の実施内容検討（R7.9.9承認） 1-⑤ 令和5年9月～令和8年3月 新学部設置のための自治体・協力企業・他機関との連携検討（R7.9.9承認） 1-⑥ 令和5年9月～令和7年12月 新学部設置のための教員採用計画（R7.9.9承認） 1-⑦ 令和5年9月～令和6年6月 新学部設置のための事前調査の実施内容検討（R7.9.9承認） 1-⑧ 令和5年9月～令和8年8月 新学部設置のための検証用機器選定（R7.9.9承認） 1-⑨ 令和6年4月～令和6年6月 新学部設置のための学生確保に関する調査の実施内容検討（R7.9.9承認） 1-⑩ 令和6年8月～令和7年5月 新学部設置のための入学者選抜の見直し（R7.9.9承認） 2前-① 令和5年10月～令和6年5月 新学部設置のための新校舎建築のための設計士選定（R7.9.9承認） 2前-② 令和6年6月～令和７年4月 新学部設置のための新校舎設計（R7.9.9承認） 2前-③ 令和6年10月～令和7年4月 新学部設置のための新校舎建築打合せ（R7.9.9承認）		令和6年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。 建築費高騰のため建築費用が当初想定の1.5倍以上となることが判明し、基本設計の見直しを行い1か月程度の遅れが発生した。その後建築確認が想定より3週間多くかかってしまったため、総じて竣工まで2か月の遅れが生じた。このため、新学部開設予定4月前の竣工が間に合わず、4月末の竣工予定となり、計画変更申請を行い、令和7年3月26日に承認された。校舎建築に1か月程度の遅れが生じたが、既存校舎等を使用するため、教育活動等に問題は生じない。
令和7年度	1-① 令和5年4月～令和8年3月 新学部設置のためのプロジェクトチーム発足・活動（R7.9.9承認） 1-② 令和5年5月～令和8年3月 大学・高専機能強化支援事業申請・報告等（R7.9.9承認） 1-⑤ 令和5年9月～令和8年3月 新学部設置のための自治体・協力企業・他機関との連携検討（R7.9.9承認） 1-⑥ 令和5年9月～令和7年12月 新学部設置のための教員採用計画（R7.9.9承認） 1-⑧ 令和5年9月～令和8年8月 新学部設置のための検証用機器選定（R7.9.9承認） 1-⑩ 令和6年8月～令和7年5月 新学部設置のための入学者選抜の見直し（R7.9.9承認） 1後-① 令和7年4月 新学部設置のための広報の開始 1後-② 令和7年4月 新学部設置のための県内初等中等教育機関との連携検討開始 1後-③ 令和7年4月～令和8年3月 新学部設置に向けた教学システム新学部対応作業（R7.9.9承認） 1後-④ 令和7年9月～令和8年3月 新学部開始準備（R7.9.9承認） 2前-② 令和6年6月～令和７年4月 新学部設置のための新校舎設計（R7.9.9承認） 2前-③ 令和6年10月～令和7年4月 新学部設置のための新校舎建築打合せ（R7.9.9承認） 2-① 令和7年4月 新学部設置のための新校舎建築期間	1-① 令和7年4月～令和8年3月 新学部設置のためのプロジェクトチーム発足・活動 1-② 令和7年4月～令和8年3月 大学・高専機能強化支援事業申請・報告等 1-⑤ 令和7年4月～令和8年3月 新学部設置のための自治体・協力企業・他機関との連携検討 1-⑥ 令和7年4月～令和7年12月 新学部設置のための教員採用計画 1-⑧ 令和7年4月～令和8年8月 新学部設置のための検証用機器選定 1-⑩ 令和7年4月～令和7年5月 新学部設置のための入学者選抜の見直し 1後-① 令和7年4月 新学部設置のための広報の開始 1後-② 令和7年4月 新学部設置のための県内初等中等教育機関との連携検討開始 1後-③ 令和7年4月～令和8年3月 新学部設置に向けた教学システム新学部対応作業 1後-④ 令和7年9月～令和8年3月 新学部開始準備 2前-② 令和7年4月 新学部設置のための新校舎設計 2前-③ 令和7年4月 新学部設置のための新校舎建築打合せ 2-① 令和7年4月～令和8年3月 新学部設置のための新校舎建築期間	令和7年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	2-② 令和8年4月 新校舎引き渡し（R7.9.9） 2-③ 令和8年4月 備品整備（R7.9.9） 3-① 令和8年4月 自治体・協力企業・他機関との連携開始 3-② 令和8年4月 地域の初等中等学校との連携開始 3-③ 令和8年4月 地域課題解決型ＰＢＬの開始 3-④ 令和8年4月 新学部運営開始 3-⑤ 令和8年8月 履修証明プログラム検討開始 3-⑥ 令和8年4月～令和12年3月 大学・高専機能強化支援事業対応等		令和8年度自己評価 リストから選択してください。
令和9年度	3-⑥ 令和8年4月～令和12年3月 大学・高専機能強化支援事業対応等		令和9年度自己評価 リストから選択してください。
令和10年度	3-⑥ 令和8年4月～令和12年3月 大学・高専機能強化支援事業対応等		令和10年度自己評価 リストから選択してください。
令和11年度	3-⑥ 令和8年4月～令和12年3月 大学・高専機能強化支援事業対応等		令和11年度自己評価 リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価 リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価 リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価 リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和7年3月 デジタル共創学部デジタル共創学科に係る認可申請（R7.9.9）	令和7年3月 デジタル共創学部デジタル共創学科に係る認可申請	
定員減又は 学部等の廃止	令和６年4月 共愛学園前橋国際大学短期大学部生活学科 令和8年度入学生募集停止の報告（入学定員100人 内50人教育学分野、50人家政分野） 令和７年10月 国際社会学部国際社会学科49人減員に係る届出予定（入学定員250人、編入学定員2人、社会学分野） 令和８年４月 国際社会学部国際社会学科49人減員予定（入学定員250人、編入学定員2人、社会学分野）	令和６年4月 共愛学園前橋国際大学短期大学部生活学科 令和8年度入学生募集停止の報告（入学定員100人 内50人教育学分野、50人家政分野） ~~令和７年10月 国際社会学部国際社会学科49人減員に係る届出予定（入学定員250人、編入学定員2人、社会学分野）~~ デジタル共創学部認可申請時に同時申請したため。 令和８年４月 国際社会学部国際社会学科49人減員予定（入学定員250人、編入学定員2人、社会学分野）	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	共愛学園前橋国際大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では既に群馬県から「群馬を知る」や「環境政策」を、また前橋市からは「前橋市を考える」を寄付科目として提供されている。また、複数の経済団体の寄付講座も有している。加えて、太陽誘電(株)とは先端テクを実装して社会課題を解決する教育プログラムを展開してきた。市役所や企業等に半年間就業する長期インターンや地元企業のミッションに海外で取り組む授業、多くの企業と協働で地元特産品活用商品開発実践等も実施している。また地域課題をデータから考察する必修演習を開設している。このようなPBLや社会連携学修のノウハウを新学部にも生かし、連携予定の(株)グライム、(株)リバネス、デロイトとも、講師派遣も含めてデジタル、グリーン領域のPBL型授業を実施する予定であり、さらに前橋市とはスマートシティ関連、群馬県とはGX関連のPBLを設計できるよう、設置申請までにその詳細を整える。連携協定を有する前橋工科大学とは情報関連科目と国際教養科目の交換提供等の協議を一昨年度より断続的に行っており、プラットフォームで協働する群馬大学とは、同大が運営するICTデータサイエンスコンソーシアムに参画し連携する予定である。	前橋市や群馬県とも従来の寄附科目としてのPBLの設計・実施にとどまず連携を進めているが、加えて、県教育委員会とは、DXハイスクール校との連携を継続して協議している。長期インターンシップ受入に関しては、従来の前橋市や群馬日産(株)等から新学部学生の受入承諾を得ており、さらなる受入先の開拓を行いつつ、令和9年度からの実施に向け調整を行っている。連携予定企業である企業からは、スタッフを客員教員として迎え入れPBL等の授業として、より現場に即した実践的な授業となるよう実施に向け準備を進めている。地域企業とは、地元経済同友会や商工会議所等との従来の密接な関係を維持しつつ、令和7年度に設置したデジタル共創研究センターも加え、新たな企業等との連携の協議を進めている。他大学との連携は、新学部設置認可申請に伴い設計したカリキュラムとの整合性を踏まえ、引き続き連携について協議を行っていくこととしている。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜においては、総合型選抜で探究活動重視型やめぶID活用の学習歴重視型入試の開発を、一般選抜では独自入試でも大学入学共通テストでも数理科目、情報科目の必受験を予定する。女子学生の確保は、SSH校のみならず、短期大学部栄養専攻の受験生輩出校、共愛学園高校、女子生徒の進路が文系中心の高校へ、県男女共同参画センターとも連携し出張授業を行い、分野の理解に加え、ジェンダートラック解消プログラムも提供する。なお、群馬県教育長は情報教育分野の女性研究者であり、本学の前学長であることを付言する。初等中等教育との連携では、これまでも小学生対象のプログラミング教育を民間連携で実施したり、教育委員会からの委嘱を受けて小学校に教員を派遣したり、公立高校の課題研究を本学が担当して単位も付与する取組があったり、複数のSSH高校へ運営指導員や研究指導の学生・教員を派遣したりといった実績がある。これらを踏まえ、新学部でも多くの連携を構築し、同分野への高校生への進路選択に寄与したい。社会人の受け入れはプラットフォームの連携も活かしながら、オンライン等も活用した履修証明プログラム等を設置し、強化していく予定である。	入学者選抜において既設学部の選抜種別と変えることはしないが、総合型選抜では、新たにAI学習システムを用い、選抜判定だけでなく、入学前教育としての一面も持たせるなど、独自入試を実施した。一般選抜や共通テスト利用型選抜において数学（Ⅰ・A）を必須とし実施した。女子生徒の進路拡張にむけた取り組みは、県教育委員会を中心として県内DXハイスクール選定校とコンソーシアムが立ち上がり、新学部が開学する令和8年度以降、女子生徒向けプログラムの提供を行えるよう引き続き検討していく予定である。初等中等の生徒向けには、デジタル共創研究センターと連携し、高校生研究員制度を立ち上げるなど、プログラミング教育等にとどまらない新たなプログラムが始まっている。社会人の受入れ（リカレント・リスキリングの対応）は、新学部の運営が安定したのちとなるが、専門がリキュラム分野に導入した３つのモジュール型カリキュラム（ICTモジュール、Mangemnetモジュール、Well-Beingモジュール）を社会人にも開放し、履修証明プログラム化するなどのスキームを引き続き検討していく。	

大学名	共愛学園前橋国際大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞
(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	デジタル共創学部デジタル共創学科（工学関係）

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定		認可	開設															
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人				100															
		編入学定員	人				0															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-	100															
		入学者数	人	-	-	-	75															
		女子学生数	人	-	-	-	18															
		社会人学生数	人	-	-	-	0															
		留学生数	人	-	-	-	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-	100															
		入学者数(B)	人	-	-	-	75															
		女子学生数	人	-	-	-	18															
		社会人学生数	人	-	-	-	0															
		留学生数	人	-	-	-	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	0.75															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-	100															
		編入学定員	人	-	-	-	0															
		在籍者数(D)	人	-	-	-	75															
		編入学者数	人	-	-	-	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-	0.75															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-	7															
		授業科目の単位数	単位	-	-	-	22															

大学名	共愛学園前橋国際大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-	100															
		入学者数	人	-	-	-	75															
		女子学生数	人	-	-	-	18															
		社会人学生数	人	-	-	-	0															
		留学生数	人	-	-	-	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-	100															
		入学者数(B)	人	-	-	-	75															
		女子学生数	人	-	-	-	18															
		社会人学生数	人	-	-	-	0															
		留学生数	人	-	-	-	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	0.75															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-	100															
		編入学定員	人	-	-	-	0															
		在籍者数(D)	人	-	-	-	75															
		編入学者数	人	-	-	-	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-	0.75															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-	7															
		授業科目の単位数	単位	-	-	-	22															

大学名	共愛学園前橋国際大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	299	299	299	350															
		入学者数	人	305	321	367	425															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	299	299	299	350															
		入学者数(B)	人	305	321	367	425															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.07	1.23	1.21															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1156	1200	1200	1251															
		編入学定員	人	2	2	2	2															
		在籍者数(D)	人	1229	1292	1327	1426															
		編入学者数	人	4	3	2	2															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.08	1.11	1.14															

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定													
項目 / 単位																			
外部資金獲得額 / 千円	25,996	26,858	102,035	31,151	27,459	34,317	44,957	78,715											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金	千円	28,490
本事業による助成金の額(F)	千円	1,006,833
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	53,660

特記事項